

iBar[®] Series

パラメータ設定ガイド

iBar[®]
iBar[®]-S
iBar[®]BT
iBarBT-M
iBarBT-Plus
iBar[®]-One
MT100A



ウェルコムデザイン株式会社

本 社 〒651-2242 神戸市西区井吹台東町1-1-1 西神南センタービル
S D C 〒651-2102 神戸市西区学園東町6丁目2-3-1F

TEL. 078-993-6010(代) FAX. 078-993-6020 [本社 & SDC]

(※) SDC stands for Support and Delivery Center

U R L : www.e-welcom.com
e-mail: welcom@e-welcom.com

東 京 〒113-0034 東京都文京区湯島 3-14-9 湯島ビル
TEL. 03-3836-9411(代) FAX. 03-3836-9412

1. 本書の内容に関しては、将来予告無しに変更することがあります。
2. 本取扱説明書の全部又は一部を無断で複製することはできません。
3. 本書内に記載されている製品名等の固有名詞は各社の商標又は登録商標です。
4. 本書内において、万一誤り、記載漏れなどお気づきのことがありましたらご連絡ください。
5. 運用した結果の影響について、責任を一切負いかねます。

製品保証と注意事項

「保証期間」

本製品の保証期間は、ご購入日より1年とさせていただきます。

「保証範囲」

保証期間中に納入者側の責により故障を生じた場合は、納入者側において機器の修理または交換を行います。但し、保証期間内であっても、次に該当する場合は、保証対象から除外させていただきます。

- 需要者側の不適当な取り扱いならびに使用
- 故障の原因が納入者以外の事由による場合
- 外装部品の損傷
- 自然劣化・消耗部品
- 需要者側で改造・修理を行った場合
- 天災地変による場合

尚、ここでいう保証は納入品単体の保障を意味するもので、納入品の故障により誘発される損害はご容赦いただきます。

「修理」

修理は全てドック方式で行います。現地での出張修理などは一切行いません。

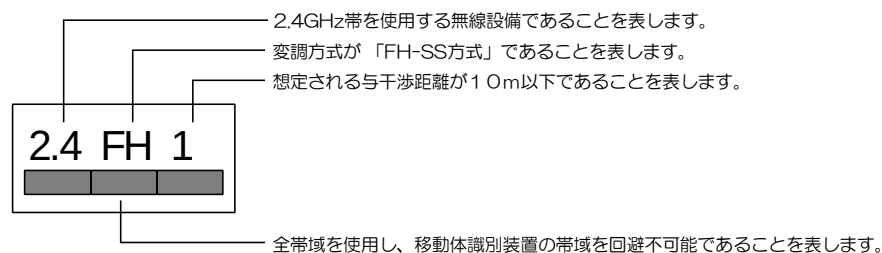
「電波障害自主規制について」

本装置は米国通信規制「FCC 第15条補足J」による計算機器制約条件に適合しております。商業環境での使用において妥当な保護措置がなされています。しかし、住宅地域でのご使用は妨害（ラジオ・テレビなどの受信障害）が起こることがあります。

「電波について」

■ 電波に関する注意 ■

- 本製品の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）及び特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。
 1. 本製品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
 2. 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合は、速やかに使用場所を変更するか、電波の発射を停止してください。
- 本製品は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局の端末設備として、技術適合証明を受けています。本製品の分解/改造は違法となります。
- 交通機関内や医療機関内などでは、本製品のご使用はお控えください。電子機器や心臓ペースメーカーなどへの影響の可能性もあるため、ご利用に関しては



「その他」

- 納入品の価格には、サービス費用は一切含んでおりません。

安全上の注意

安全にお使い頂くために必ずお守りください。

警告・注意表示は、製品を安全に正しくお使い頂き、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぐために守って頂きたい事項を示しています。
その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから、本文をお読み下さい。



警告

この表示を無視して誤った取り扱いをすると死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して誤った取り扱いをすると傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷の発生が想定される内容を示しています。

絵記号の意味

	<注意> 一般的な注意、警告、危険の通知を示しています。		<禁止> 一般的な禁止を示しています。
	<発火注意> 発火の可能性が想定されることを示しています。		<水気禁止> 風呂、シャワーなどの水気の多い場所での使用を禁止することを示しています。
	<感電注意> 感電の可能性が想定されることを示しています。		<分解禁止> 製品の分解や改造を禁止することを示しています。
	<破裂注意> 破裂の可能性が想定されることを示しています。		<ケガ注意> 指を挟まれるなど、ケガを負う可能性が想定されることを示しています。



■本装置を絶対に分解しないで下さい。故障・感電（火災）の原因になります。



■直射日光が長時間当たる場所、粉塵の多い場所、湿気が異常に多い場所、水を扱う場所、暖房機器などの発熱物の近くなでは使用しないで下さい。故障・感電（火災）の原因になります。



■ケーブルに重いものを載せないで下さい。また、ケーブルをねじったり、強く引っ張ったりしないで下さい。ケーブルの被覆破れや断線が発生し、故障・感電（火災）の原因になります。



■引火性のガスや発火性の物質のある場所及び薬品や化学物質などを扱う場所では、絶対に使用しないで下さい。火災・爆発・故障の原因になります。



■故障した状態のまま使用しないで下さい。異臭がする、煙が出たなどの異常が生じた時は、すぐに接続している機器の電源をOFFにし、コネクタを抜いて下さい。感電（火災）の原因になります。





■使用可能な温度・湿度内で使用して下さい。故障の原因になります。



■濡れた手でケーブルの接続や取り外しを行わないで下さい。故障・感電の原因になります。



■長期的な振動（バイクの荷台や自転車での移動）や強いショック（落下）を与えないで下さい。故障の原因になります。



■温度が激しく変化する場所（夏場の車内）や熱器具など熱を発生する物の近くに放置しないで下さい。装置のケースが変形したり、故障の原因になります。



■不安定な場所（棚など）でのご使用や保管は避けて下さい。不用意な落下による故障やけがの原因になります。



■揮発性の高い有機溶剤（シンナー・ベンジンなど）や薬品、化学雑巾で拭かないでください。また、殺虫剤を吹きかけないで下さい。ケースの変形や変色の原因になります。



INDEX

1. はじめに	8
1.1. システムコード	8
2. インターフェイスの設定	8
USB-HID(iBar 専用)	9
Bluetooth SPP スレーブ 接続(iBarBT 専用)	9
Bluetooth SPP マスタ接続(iBarBT 専用)	9
Bluetooth HID(iBarBT 専用)	10
キーボードオプションの設定	10
Bluetooth HID SSP(iBarBT 専用)	10
PIN コードの設定(iBarBT 専用)	11
通信圏外メモリ機能(iBarBT 専用)	12
通信クオリティの設定(iBarBT 専用)	12
アイドルモード移行タイマーの設定(iBarBT 専用)	12
3. トリガモードの設定	13
4. ビープ/パルスレータの設定	13
5. 送信デレイの設定	14
読取データ間送信デレイ	14
キャラクタ間送信デレイ	14
6. データフォーマットの設定	15
ターミネータ	15
読取データ桁数	15
ブリアップ/ルノホースアップル	16
コード ID	16
ユーザーコード ID	17
7. 反転バーコード読み取りの設定	17
8. 読み取りバーコードの設定	18
チャイナコード	18
MSI	19
UK Plessey	20
コード 93	20
Telepen	21
IATA	21
インターリーブド 2/5	22
コード 11	23
インタストリアル 2/5	24
マトリクス 2/5	25
コードバール(NW7)	26
コード 39	28
UPC-E	29
UPC-A	30
EAN-8	31
EAN-13	32
コード 128	33
GS1-128	34
GS1 Databar - Omni & Stacked	35
GS1 Databar - Limited	35
GS1 Databar - Expanded	36
9. メモリーモードの設定(メモリ搭載モデル専用)	37
システムモード	37
データ出力インターフェイス	37
データフォーマット	38
日付フォーマット	39
時刻フォーマット	40
フィルターセパレータ	41
日付の設定	41
時刻の設定	42
補足 A. シリアルモード(iBarBT 専用)	44
接続確認コマンド	44
トリガスタートコマンド	44
トリガストップコマンド	44
タイマー付トリガコマンド	44
ビープコマンド	45
補足 B. フルASCIIバーコード表	46
補足 C. ASCIIコード表	52
補足 D. サブパラコード	53
修理依頼書	54

1. はじめに

この度は、弊社 iBar®及び iBar®BT/MT100A(以下、バーコードリーダー)をお買い上げいただきありがとうございます。本書は、バーコードリーダーのパラメータ設定を行うために用意された別冊ガイドです。基本的な導入方法に関しては、製品に同梱されている導入ガイドを参照ください。

本書に掲載しているコマンドバーコードを読み取ることで、バーコードリーダーのインターフェイスや読み取りに関するパラメータ設定が行えます。設定されたパラメータは、不揮発性メモリに保存されるため、電源を切にしても設定が消えることはありません。

TBT シリーズのバーコードリーダーは、Ez One Shot® と呼ばれる、パラメータ設定開始コマンドバーコードやパラメータ設定終了コマンドバーコードを使用しないワンショットタイプのコマンドバーコードを採用しています。

バーコードリーダーは、ワンショットタイプのコマンドバーコードをスキャンすると、ピピッというビープ音を鳴動し、コマンドバーコード以外のバーコードをスキャンした場合は、ピッというグットリッドビープ音が鳴動します。

ビープ音	
ピッ	バーコードをスキャンした場合に鳴動するグットリッドビープ音です。パラメータ設定で正しい引数をスキャンした場合も鳴動します。
ピッリ	パラメータ設定で間違った引数がスキャンされた場合などに鳴動するエラービープ音です。
ピピッ	ワンショットタイプのコマンドバーコードをスキャンした場合に鳴動するビープ音で

1.1. システムバーコード

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 A 0 0 1 \$	工場出荷時の初期状態(デフォルト値)にリセットします。	
 A 0 0 7 \$	ファームウェアバージョン情報を出力します。	

2. インターフェイスの設定

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 C 0 3 5 \$	無線インターフェイス(Bluetooth)	■ (iBarBT)
 C 0 0 8 \$	USB-HID インターフェイス	■ (iBar)
 C 0 0 6 \$	USB-COM インターフェイス ¹	

¹ 一部の機種・ファームウェアのみ対応しています。

USB-HID

必要に応じて、キーボードオプションの設定を行ってください。

USB-HID		
 . C 0 0 8 \$		
キーボードオプション		
英語キーボード(*)  . C 0 1 0 \$	日本語キーボード  . C 0 0 9 \$	ALT シークス  . C 0 1 5 \$
CapsLock オフ  . A 0 0 4 \$	CapsLock オン(*)  . A 0 0 5 \$	CapsLock 自動  . A 0 0 6 \$
数字テンキー送信  . D 0 1 7 \$		数字フリック送信(*)  . D 0 1 8 \$

Bluetooth SPP スLEEP 接続(iBarBT 専用)

1. トリガボタンを約 1 秒間押し、リーダーの電源をオンにします。
2. 「Bluetooth 切断」をスキャンします。
3. 「Bluetooth SPP」をスキャンします。
4. PC などのマスターデバイスでリーダーを検索し、ペアリングを行います。デフォルトの PIN コードは、「1234」です。PIN コードを変更したい場合は、事前に次頁の「PIN コードの設定」で変更してください。
5. 接続が完了すれば、ビープを 2 回鳴動します。

Bluetooth SPP マスタ接続(iBarBT 専用)

1. トリガボタンを約 1 秒間押し、リーダーの電源をオンにします。
2. 「Bluetooth 切断」をスキャンします。
3. 「Bluetooth SPP」をスキャンします。
4. 接続したいスLEEPデバイスの MAC アドレス(BD アドレス)の先頭に LTB を付加して、コード 39 でバーコードを作成し、そのバーコードをリーダーでスキャンします。例では、MAC アドレス「001583522C3B」としてしています。
5. スLEEPデバイス側で PIN コード入力が求められれば、「1234」を入力します。SPP マスタ接続の PIN コードは「1234」固定です。
6. 接続が完了すれば、ビープを 2 回鳴動します。

Bluetooth 切断  . E 0 3 1 \$	Bluetooth SPP  . E 0 4 2 \$
スLEEPデバイスの MAC アドレス(BD アドレス)  L T B 0 0 1 5 8 3 5 2 2 C 3 B	

Bluetooth HID(iBarBT 専用)

Bluetooth HID に設定します。

1. トリガボタンを約 1 秒間押し、パソコンリーダーの電源をオンにします。
2. 「Bluetooth 切断」をスキャンします。
3. 「Bluetooth HID」をスキャンします。
4. PC などのマスターデバイスでパソコンリーダーを検索し、ペアリングを行います。
5. マスターデバイス側に PIN コードが表示されれば、次頁の「PIN コードの設定」で PIN コードを入力します。
6. 接続が完了すれば、ビープを 2 回鳴動します。

Bluetooth 切断  . E 0 3 1 \$	Bluetooth HID  . E 0 4 3 \$
---	---

キーボードオプションの設定

キーボードオプション		
英語キーボード(*)  . C 0 1 0 \$	日本語キーボード  . C 0 0 9 \$	ALT シークス  . C 0 1 5 \$
CapsLock 切  . A 0 0 4 \$	CapsLock 切(*)  . A 0 0 5 \$	CapsLock 自動  . A 0 0 6 \$
数字テンキ-送信  . D 0 1 7 \$	数字フルキ-送信(*)  . D 0 1 8 \$	

Bluetooth HID SSP(iBarBT 専用)²

iOS との SSP(Simple Secure Pairing)接続を有効にします。Bluetooth HID ペアリングを開始する前に、下記の SSP コード パーコード をスキャンしてください。

SSP 有効  . E 0 4 9 \$

² 一部の機種・ファームウェアのみ対応しています。

PIN コードの設定(iBarBT 専用)

PIN コードを設定します。

1. 「PIN コード 設定開始」をスキャンします。
2. 「数値バーコード」から PIN コード をスキャンします。
3. PIN コード のスキャンが終われば、「確定」をスキャンします。
4. 最後に「PIN コード 設定終了」をスキャンします。

PIN コード 設定開始  . E 0 3 2 \$	
数値バーコード	
0 	1 
2 	3 
4 	5 
6 	7 
8 	9 
確定  \$ T X	やり直し  . P 0 2 3 \$
PIN コード 設定終了  . E 0 3 3 \$	

通信圏外メモリ機能(iBarBT 専用)

この機能をONにすると、通信圏外でキャプされたデータを一時的に内蔵メモリ(2KB RAM)に格納し、通信圏内に戻った時点で、ホストへアップロードします。

OFF(*)  . E 0 5 3 \$	ON  . E 0 5 4 \$
---	--

通信クオリティの設定(iBarBT 専用)

ホストとの通信クオリティレベルを設定します。ハイククオリティに設定した場合、より安全な通信を実現しますが、通信速度と通信距離が低下します。

ハイククオリティ  . E 0 3 5 \$	ノーマルクオリティ(*)  . E 0 3 6 \$
---	--

アイドルモード 移行タイマーの設定(iBarBT 専用)

1分(*)  . B 0 1 7 \$	3分  . B 0 1 8 \$
5分  . B 0 1 9 \$	10分  . B 0 2 0 \$
無し(常時ON)  . B 0 2 1 \$	

3. トリガモードの設定

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 . F 0 0 5 \$	<u>連続モード</u> 読取 LED を常時点灯して、バーコードの読み取りを行います。	
 . F 0 0 1 \$	<u>フラッシングモード</u> 読取 LED を常時点灯して、バーコードの読み取りを行います。但し、60 秒経過してもバーコードを読み取らなかった場合は、読取 LED をフラッシングさせます。	
 . F 0 0 2 \$	<u>レーザーモード</u> トリガキーを押している間、読取 LED を点灯して、バーコードの読み取りを行います。	■
 . F 0 0 6 \$	<u>アウトモード</u> トリガキーを押すと、60 秒間、読取 LED を点灯して、バーコードの読み取りを行います。	

4. ビープバイブレータの設定

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 . F 0 1 2 \$	ビープ無し	
 . F 0 1 9 \$	ビープ 高音	
 . F 0 2 1 \$	ビープ 高音/低音	
 . F 0 1 8 \$	ビープ 中音	■
 . F 0 2 0 \$	ビープ 低音/高音	
 . F 0 2 2 \$	ビープ 低音	
 . D 0 3 5 \$	バイブレータ無し	■
 . D 0 3 4 \$	バイブレータ有り(バイブレータ搭載モデルのみ有効)	

5. 送信デレイの設定

読取データ間送信デレイ

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 . B 0 0 1 \$	0 ミリ秒	■
 . B 0 0 2 \$	10 ミリ秒	
 . B 0 0 3 \$	50 ミリ秒	
 . B 0 0 4 \$	100 ミリ秒	
 . B 0 0 5 \$	200 ミリ秒	
 . B 0 0 6 \$	500 ミリ秒	

キャラクタ間送信デレイ

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 . B 0 1 0 \$	140 マイクロ秒	■
 . B 0 1 1 \$	500 マイクロ秒	
 . B 0 1 2 \$	1 ミリ秒	
 . B 0 1 3 \$	4 ミリ秒	
 . B 0 1 4 \$	16 ミリ秒	

6. データフォーマットの設定

ターミネータ

送信フォーマット					
プリアンブル	コード ID	読取データ桁数	読取データ	ホストアンブル	ターミネータ

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 . D 0 1 0 \$	無し	
 . D 0 1 1 \$	LF	
 . D 0 1 2 \$	CR(インターキー)	■
 . D 0 1 3 \$	CR+LF	
 . D 0 1 4 \$	TAB	
 . D 0 1 5 \$	スペース	
 . D 0 1 6 \$	ESC	

読取データ桁数

送信フォーマット					
プリアンブル	コード ID	読取データ桁数	読取データ	ホストアンブル	ターミネータ

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 . D 0 1 0 \$	無し	■
 . D 0 1 6 \$	有り(2桁送信 ex:5桁=05)	

フリアンブルホストアンブル

送信フォーマット					
フリアンブル	コード ID	読取データ桁数	読取データ	ホストアンブル	ターミネータ

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 A 0 1 1 \$	無し(全クリア)	■
 A 0 1 2 \$	フリアンブル 「フリアンブル」をスキャンし、続けて、設定したいキャラクタを「補足 A.フルアスキーバーコード」から 16 文字以内でスキャンし、最後に「フリアンブル」を再度スキャンします。例えば、@@に設定したい場合は、「フリアンブル」「@」「@」「フリアンブル」の順にスキャンします。	
 A 0 1 3 \$	ホストアンブル 「ホストアンブル」をスキャンし、続けて、設定したいキャラクタを「補足 A.フルアスキーバーコード」から 16 文字以内でスキャンし、最後に「ホストアンブル」を再度スキャンします。例えば、##に設定したい場合は、「ホストアンブル」「#」「#」「ホストアンブル」の順にスキャンします。	

コード ID

送信フォーマット					
フリアンブル	コード ID	読取データ桁数	読取データ	ホストアンブル	ターミネータ

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 A 0 0 9 \$	無し	■
 A 0 0 8 \$	既定コード ID	
 A 0 1 4 \$	AIM コード ID	
 A 0 1 5 \$	ユーザーコード ID(次頁の「ユーザーコード ID」を参照)	

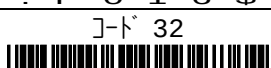
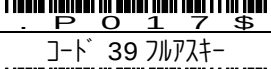
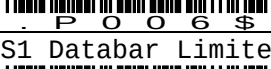
バーコードシンボル	規定コード ID	AIM ID	バーコードシンボル	規定コード ID	AIM ID
GS1-128	T	]C1	MSI	0	]M0
コード 128	K	]C0	MSI MOD10 CD 送信無し		]M1
EAN8	S	]E4	コード 32	B	]X0
EAN8 7ドット 2		]E4	コードバー(NW7)	N	]F0
EAN8 7ドット 5		]E4	ABC コードバー		]F1
UPCE	E	]E0	コードバー - CD 送信有り		]F2
UPCE 7ドット 2		]E3	コードバー - CD 送信無し		]F4
UPCE 7ドット 5		]E3	UK Plessey	P	]P0
UPCA	A	]E0	マトリクス 2/5	Y	]X0
UPCA 7ドット 2		]E3	コード 39 フルアスキー - CD 無し	D	]A4
UPCA 7ドット 5		]E3	コード 39 フルアスキー - CD 送信有り		]A5
EAN13		]E0	コード 39 フルアスキー - CD 送信無し		]A7
EAN13 7ドット 2	F	]E3	コード 39 CD 無し	M	]A0
EAN13 7ドット 5		]E3	コード 39 CD 送信有り		]A1
コード 93	L	]G0	コード 39 CD 送信無し		]A3
コード 11 CD 無し	J	]H0	IATA2/5	R	]R0
コード 11 1CD 送信		]H0	インダストリアル 2/5	V	]S0
コード 11 2CD 送信		]H1	チャイナ スト 2/5	H	]X0
コード 11 CD 送信無し		]H3	インターラプト 2/5 CD 無し	I	]I0
Telepen ASCII	U	]B0	インターラプト 2/5 CD 送信有り		]I1
Telepen Numeric		]B1	インターラプト 2/5 CD 送信無し		]I3

ユーザ -コード ID

下記の手順に従って、ユーザ -コード ID を設定します。

1. ユーザ -コード ID を設定したい「バーコード シンボル」をスキャンします。
2. 続けて、設定したいキャラクタを「補足 A.フルアスキー -コード」から 2 文字以内でスキャンします。
3. 最後に「バーコード シンボル」を再度スキャンします。

例えば、コード 39 のユーザ -コード ID を##に設定したい場合は、「コード 39」「#」「#」「コード 39」の順にスキャンします。

バーコード シンボル		
EAN13  . P 0 0 1 \$	EAN8  . P 0 0 2 \$	UPCE  . P 0 0 3 \$
UPCA  . P 0 0 4 \$	コード 39  . P 0 0 5 \$	コード 93  . P 0 1 3 \$
コーダバ - (NW7)  . P 0 0 7 \$	IATA  . P 0 2 1 \$	コード 128  . P 0 1 0 \$
GS1-128  . P 0 1 6 \$	Telepen  . P 0 2 2 \$	コード 11  . P 0 0 9 \$
コード 32  . P 0 1 1 \$	チャイナポスト  . P 0 1 2 \$	MSI  . P 0 1 4 \$
UK Plessey  . P 0 1 5 \$	マトリクス 2/5  . P 0 1 7 \$	インターリーブド 2/5  . P 0 0 6 \$
インダストリアル 2/5  . P 0 1 8 \$	コード 39 フルアスキー  . P 0 0 8 \$	GS1 Databar Limited  . P 0 1 9 \$
GS1 Databar Expanded  . P 0 2 0 \$	GS1 Databar  . P 0 2 4 \$	予備  . P 0 2 0 \$

7. 反転バーコード 読み取りの設定

コマンド バーコード	説明	デフォルト
 . D 0 2 1 \$	無し	■
 . D 0 2 2 \$	有り	

8. 読み取りバーコードの設定

コマンドバーコード	説明	デフォルト
. A 0 0 2 \$	全てのバーコードを読み取る	
. A 0 0 3 \$	全てのバーコードを読み取らない	

チャイホスト

コマンドバーコード	説明	デフォルト
. K 0 0 1 \$	読み取り有り	■
. K 0 0 2 \$	読み取り無し	
. K 0 0 3 \$	チェックビット検査無し	■
. K 0 0 4 \$	チェックビット検査有り & 送信有り	
. K 0 0 5 \$	チェックビット検査有り & 送信無し	
. K 0 0 6 \$	読取最小桁数 「読取最小桁数」をスキャンし、続けて、数値バーコードで設定したい桁数をスキャンし、最後に「読取最小桁数」を再度スキャンします。例えば、11 に設定したい場合は、「読取最小桁数」「1」「1」「読取最小桁数」の順にスキャンします。	11
. K 0 0 7 \$	読取最大桁数 「読取最大桁数」をスキャンし、続けて、数値バーコードで設定したい桁数をスキャンし、最後に「読取最大桁数」を再度スキャンします。例えば、48 に設定したい場合は、「読取最大桁数」「4」「8」「読取最大桁数」の順にスキャンします。	48

数値バーコード

0 	1 	2
3 	4 	5
6 	7 	8
9 		やり直し . P 0 2 3 \$

MSI

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 . L 0 0 1 \$	読み取り有り	
 . L 0 0 2 \$	読み取り無し	■
 . L 0 0 4 \$	チェックビット検査有り & 送信有り	■
 . L 0 0 3 \$	チェックビット検査有り & 送信無し	
 . L 0 0 7 \$	チェックビットダブル Mod10	
 . L 0 0 8 \$	チェックビットダブル Mod11&10	
 . L 0 0 9 \$	チェックビットシングル Mod10	■
 . L 0 0 5 \$	読取最小桁数 「読取最小桁数」をスキャンし、続けて、数値バーコードで設定したい桁数をスキャンし、最後に「読取最小桁数」を再度スキャンします。例えば、11 に設定したい場合は、「読取最小桁数」「1」「1」「読取最小桁数」の順にスキャンします。	6
 . L 0 0 6 \$	読取最大桁数 「読取最大桁数」をスキャンし、続けて、数値バーコードで設定したい桁数をスキャンし、最後に「読取最大桁数」を再度スキャンします。例えば、48 に設定したい場合は、「読取最大桁数」「4」「8」「読取最大桁数」の順にスキャンします。	48
数値バーコード		
0 	1 	2 
3 	4 	5 
6 	7 	8 
9 		やり直し  . P 0 2 3 \$

UK Plessey

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 . L 0 1 0 \$	読み取り有り	
 . L 0 1 1 \$	読み取り無し	■
 . L 0 1 2 \$	チェックサム検査有り & 送信有り	
 . L 0 1 3 \$	チェックサム検査有り & 送信無し	■

コード 93

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 . G 0 1 0 \$	読み取り有り	
 . G 0 1 1 \$	読み取り無し	■
 . G 0 1 2 \$	読取最小桁数 「読取最小桁数」をスキャンし、続けて、数値バーコードで設定したい桁数をスキャンし、最後に「読取最小桁数」を再度スキャンします。例えば、11 に設定したい場合は、「読取最小桁数」「1」「1」「読取最小桁数」の順にスキャンします。	6
 . G 0 1 3 \$	読取最大桁数 「読取最大桁数」をスキャンし、続けて、数値バーコードで設定したい桁数をスキャンし、最後に「読取最大桁数」を再度スキャンします。例えば、48 に設定したい場合は、「読取最大桁数」「4」「8」「読取最大桁数」の順にスキャンします。	48
数値バーコード		
0 	1 	2
3 	4 	5
6 	7 	8
9 		やり直し . P 0 2 3 \$

Telepen

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 . L 0 1 4 \$	読み取り有り	
 . L 0 1 5 \$	読み取り無し	■
 . L 0 2 0 \$	ASCII タイプ	
 . L 0 2 1 \$	Numeric タイプ	■

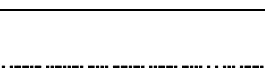
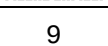
IATA

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 . N 0 1 7 \$	読み取り有り	
 . N 0 1 8 \$	読み取り無し	■
 . N 0 1 9 \$	チェックビット検査無し	■
 . N 0 2 0 \$	チェックビット検査有り & 送信有り	
 . N 0 2 1 \$	チェックビット検査有り & 送信無し	
 . N 0 2 2 \$	読取最小桁数 「読取最小桁数」をスキャンし、続けて、数値バーコードで設定したい桁数をスキャンし、最後に「読取最小桁数」を再度スキャンします。例えば、11 に設定したい場合は、「読取最小桁数」「1」「1」「読取最小桁数」の順にスキャンします。	6
 . N 0 2 3 \$	読取最大桁数 「読取最大桁数」をスキャンし、続けて、数値バーコードで設定したい桁数をスキャンし、最後に「読取最大桁数」を再度スキャンします。例えば、48 に設定したい場合は、「読取最大桁数」「4」「8」「読取最大桁数」の順にスキャンします。	48
数値バーコード		
0 	1 	2
3 	4 	5
6 	7 	8
9 		やり直し . P 0 2 3 \$

インターリーブド 2/5

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 J 0 0 1 \$	読み取り有り	■
 J 0 0 2 \$	読み取り無し	
 J 0 0 3 \$	チェックビット検査無し	■
 J 0 0 4 \$	チェックビット検査有り & 送信有り	
 J 0 0 5 \$	チェックビット検査有り & 送信無し	
 J 0 0 8 \$	先頭桁削除	
 J 0 0 9 \$	最終桁削除	
 J 0 1 4 \$	先頭桁/最終桁削除無し	■
 J 0 0 6 \$	<u>読取最小桁数</u> 「読取最小桁数」をスキャンし、続けて、数値バーコードで設定したい桁数をスキャンし、最後に「読取最小桁数」を再度スキャンします。例えば、11 に設定したい場合は、「読取最小桁数」「1」「1」「読取最小桁数」の順にスキャンします。	6
 J 0 0 7 \$	<u>読取最大桁数</u> 「読取最大桁数」をスキャンし、続けて、数値バーコードで設定したい桁数をスキャンし、最後に「読取最大桁数」を再度スキャンします。例えば、48 に設定したい場合は、「読取最大桁数」「4」「8」「読取最大桁数」の順にスキャンします。	48
数値バーコード		
0 	1 	2 
3 	4 	5 
6 	7 	8 
9 		やり直し  F 0 2 3 \$

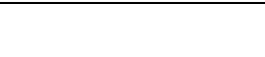
コード 11

コマンドバーコード	説明	デフォルト
	読み取り有り	■
	読み取り無し	
	チェックビット検査無し	■
	チェックビット検査有り & 送信有り	
	チェックビット検査有り & 送信有り(1桁)	
	チェックビット検査有り & 送信有り(2桁)	
	チェックビット検査有り & 送信無し	
	<u>読取最小桁数</u> 「読取最小桁数」をスキャンし、続けて、数値バーコードで設定したい桁数をスキャンし、最後に「読取最小桁数」を再度スキャンします。例えば、11 に設定したい場合は、「読取最小桁数」「1」「1」「読取最小桁数」の順にスキャンします。	6
	<u>読取最大桁数</u> 「読取最大桁数」をスキャンし、続けて、数値バーコードで設定したい桁数をスキャンし、最後に「読取最大桁数」を再度スキャンします。例えば、48 に設定したい場合は、「読取最大桁数」「4」「8」「読取最大桁数」の順にスキャンします。	32
数値バーコード		
0 	1 	2 
3 	4 	5 
6 	7 	8 
9 		やり直し 

インダストリアル 2/5

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 . N 0 0 1 \$	読み取り有り	
 . N 0 0 2 \$	読み取り無し	■
 . N 0 0 3 \$	チェックビット検査無し	■
 . N 0 0 4 \$	チェックビット検査有り & 送信有り	
 . N 0 0 5 \$	チェックビット検査有り & 送信無し	
 . N 0 0 6 \$	読取最小桁数 「読取最小桁数」をスキャンし、続けて、数値バーコードで設定したい桁数をスキャンし、最後に「読取最小桁数」を再度スキャンします。例えば、11 に設定したい場合は、「読取最小桁数」「1」「1」「読取最小桁数」の順にスキャンします。	6
 . N 0 0 7 \$	読取最大桁数 「読取最大桁数」をスキャンし、続けて、数値バーコードで設定したい桁数をスキャンし、最後に「読取最大桁数」を再度スキャンします。例えば、48 に設定したい場合は、「読取最大桁数」「4」「8」「読取最大桁数」の順にスキャンします。	48
数値バーコード		
0 	1 	2
3 	4 	5
6 	7 	8
9 		やり直し . P 0 2 3 \$

マトリクス 2/5

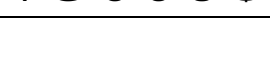
コマンドバーコード	説明	デフォルト
 . M 0 1 0 \$	読み取り有り	
 . M 0 1 1 \$	読み取り無し	■
 . M 0 1 2 \$	チェックサム検査無し	■
 . M 0 1 3 \$	チェックサム検査有り & 送信有り	
 . M 0 1 4 \$	チェックサム検査有り & 送信無し	
 . M 0 1 5 \$	<u>読取最小桁数</u> 「読取最小桁数」をスキャンし、続けて、数値バーコードで設定したい桁数をスキャンし、最後に「読取最小桁数」を再度スキャンします。例えば、11 に設定したい場合は、「読取最小桁数」「1」「1」「読取最小桁数」の順にスキャンします。	6
 . M 0 1 6 \$	<u>読取最大桁数</u> 「読取最大桁数」をスキャンし、続けて、数値バーコードで設定したい桁数をスキャンし、最後に「読取最大桁数」を再度スキャンします。例えば、48 に設定したい場合は、「読取最大桁数」「4」「8」「読取最大桁数」の順にスキャンします。	48
数値バーコード		
0 	1 	2 
3 	4 	5 
6 	7 	8 
9 		やり直し  . P 0 2 3 \$

コードバ - (NW7)

コマンドバ -コード	説明	デフォルト
 . I 0 0 1 \$	読み取り有り	■
 . I 0 0 2 \$	読み取り無し	
 . I 0 0 5 \$	チェックビット検査無し	■
 . I 0 0 6 \$	チェックビット検査有り & 送信有り	
 . I 0 0 7 \$	チェックビット検査有り & 送信無し	
 . I 0 0 8 \$	読取最小桁数 「読取最小桁数」をスキャンし、続けて、数値バ -コード で設定したい桁数をスキャンし、最後に「読取最小桁数」を再度スキャンします。例えば、11 に設定したい場合は、「読取最小桁数」「1」「1」「読取最小桁数」の順にスキャンします。	6
 . I 0 0 9 \$	読取最大桁数 「読取最大桁数」をスキャンし、続けて、数値バ -コード で設定したい桁数をスキャンし、最後に「読取最大桁数」を再度スキャンします。例えば、48 に設定したい場合は、「読取最大桁数」「4」「8」「読取最大桁数」の順にスキャンします。	48
数値バ -コード		
0 	1 	2 
3 	4 	5 
6 	7 	8 
9 		やり直し  . P 0 2 3 \$

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 . I 0 3 0 \$	スタート/ストップ° abcd/abcd	
 . I 0 2 9 \$	スタート/ストップ° ABCD/ABCD	■
 . I 0 3 1 \$	スタート/ストップ° ABCD/TN*E	
 . I 0 3 2 \$	スタート/ストップ° abcd/tn*e	
 . I 0 0 3 \$	スタート/ストップ° 送信有り	■
 . I 0 0 4 \$	スタート/ストップ° 送信無し	
 . I 0 2 7 \$	CLSI フォーマット変換有り	
 . I 0 2 8 \$	CLSI フォーマット変換無し	■

コード 39

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 G 0 0 8 \$	読み取り有り	■
 G 0 0 9 \$	読み取り無し	
 G 0 0 2 \$	ファスキー無し	
 G 0 0 1 \$	ファスキー有り	■
 G 0 1 5 \$	スタート/ストップ 送信無し	■
 G 0 1 4 \$	スタート/ストップ 送信有り	
 G 0 0 3 \$	チェックビット検査無し	■
 G 0 0 4 \$	チェックビット検査有り & 送信有り	
 G 0 0 5 \$	チェックビット検査有り & 送信無し	
 G 0 0 6 \$	読取最小桁数 「読取最小桁数」をスキャンし、続けて、数値バーコードで設定したい桁数をスキャンし、最後に「読取最小桁数」を再度スキャンします。例えば、11 に設定したい場合は、「読取最小桁数」「1」「1」「読取最小桁数」の順にスキャンします。	6
 G 0 0 7 \$	読取最大桁数 「読取最大桁数」をスキャンし、続けて、数値バーコードで設定したい桁数をスキャンし、最後に「読取最大桁数」を再度スキャンします。例えば、48 に設定したい場合は、「読取最大桁数」「4」「8」「読取最大桁数」の順にスキャンします。	48
数値バーコード		
0 	1 	2 
3 	4 	5 
6 	7 	8 
9 		やり直し  P 0 2 3 \$

UPC-E

コマンドバーコード	説明	デフォルト
. H 0 0 7 \$	読み取り有り	■
. H 0 0 8 \$	読み取り無し	
. H 0 1 0 \$	先頭桁送信無し	
. H 0 0 9 \$	先頭桁送信有り	■
. H 0 1 2 \$	チェックジット送信無し	
. H 0 1 1 \$	チェックジット送信有り	■
. H 0 3 8 \$	アドカ5 読み取り無し	■
. H 0 3 7 \$	アドカ5 読み取り有り	
. H 0 4 0 \$	アドカ2 読み取り無し	■
. H 0 3 9 \$	アドカ2 読み取り有り	
. H 0 4 8 \$	アドカセパレータ無し	■
. H 0 4 7 \$	アドカセパレータ有り(スペース)	
. H 0 5 5 \$	アドカ必須読み取り無し	■
. H 0 5 6 \$	アドカ必須読み取り有り	
. H 0 6 4 \$	UPC-E0 読み取り無し	
. H 0 6 3 \$	UPC-E0 読み取り有り	■
. H 0 6 5 \$	UPC-E1 読み取り無し	
. H 0 6 6 \$	UPC-E1 読み取り有り	■
. H 0 5 4 \$	UPC-A 変換無し	■
. H 0 5 3 \$	UPC-A 変換有り	

UPC-A

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 . H 0 0 1 \$	読み取り有り	■
 . H 0 0 2 \$	読み取り無し	
 . H 0 0 4 \$	先頭桁送信無し	
 . H 0 0 3 \$	先頭桁送信有り	■
 . H 0 0 6 \$	チェックビット送信無し	
 . H 0 0 5 \$	チェックビット送信有り	■
 . H 0 3 4 \$	アドカン5 読み取り無し	■
 . H 0 3 3 \$	アドカン5 読み取り有り	
 . H 0 3 6 \$	アドカン2 読み取り無し	■
 . H 0 3 5 \$	アドカン2 読み取り有り	
 . H 0 4 6 \$	アドカンパレータ無し	■
 . H 0 4 5 \$	アドカンパレータ有り(スペース)	
 . H 0 5 9 \$	アドカン必須読み取り無し	■
 . H 0 6 0 \$	アドカン必須読み取り有り	
 . H 0 6 7 \$	EAN-13 変換無し	■
 . H 0 6 8 \$	EAN-13 変換有り	

EAN-8

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 . H 0 1 9 \$	読み取り有り	■
 . H 0 2 0 \$	読み取り無し	
 . H 0 2 2 \$	先頭桁送信無し	
 . H 0 2 1 \$	先頭桁送信有り	■
 . H 0 2 4 \$	チェックビット送信無し	
 . H 0 2 3 \$	チェックビット送信有り	■
 . H 0 3 0 \$	アドカン5 読み取り無し	■
 . H 0 2 9 \$	アドカン5 読み取り有り	
 . H 0 3 2 \$	アドカン2 読み取り無し	■
 . H 0 3 1 \$	アドカン2 読み取り有り	
 . H 0 4 4 \$	アドカンパレータ無し	■
 . H 0 4 3 \$	アドカンパレータ有り(スペース)	
 . H 0 6 1 \$	アドカン必須読み取り無し	■
 . H 0 6 2 \$	アドカン必須読み取り有り	

EAN-13

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 . H 0 1 3 \$	読み取り有り	■
 . H 0 1 4 \$	読み取り無し	
 . H 0 1 6 \$	先頭桁送信無し	
 . H 0 1 5 \$	先頭桁送信有り	■
 . H 0 1 8 \$	チェックビット送信無し	
 . H 0 1 7 \$	チェックビット送信有り	■
 . H 0 2 6 \$	アドカン5 読み取り無し	■
 . H 0 2 5 \$	アドカン5 読み取り有り	
 . H 0 2 8 \$	アドカン2 読み取り無し	■
 . H 0 2 7 \$	アドカン2 読み取り有り	
 . H 0 4 2 \$	アドカンパレータ無し	■
 . H 0 4 1 \$	アドカンパレータ有り(スペース)	
 . H 0 5 7 \$	アドカン必須読み取り無し	■
 . H 0 5 8 \$	アドカン必須読み取り有り	
 . H 0 5 0 \$	ISBN 変換無し	■
 . H 0 4 9 \$	ISBN 変換有り	
 . H 0 5 2 \$	ISSN 変換無し	■
 . H 0 5 1 \$	ISSN 変換有り	

コード 128

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 . J 0 1 0 \$	読み取り有り	■
 . J 0 1 1 \$	読み取り無し	
 . J 0 1 2 \$	<u>読取最小桁数</u> 「読取最小桁数」をスキャンし、続けて、数値バーコードで設定したい桁数をスキャンし、最後に「読取最小桁数」を再度スキャンします。例えば、11 に設定したい場合は、「読取最小桁数」「1」「1」「読取最小桁数」の順にスキャンします。	5
 . J 0 1 3 \$	<u>読取最大桁数</u> 「読取最大桁数」をスキャンし、続けて、数値バーコードで設定したい桁数をスキャンし、最後に「読取最大桁数」を再度スキャンします。例えば、48 に設定したい場合は、「読取最大桁数」「4」「8」「読取最大桁数」の順にスキャンします。	48
数値バーコード		
0 	1 	2 
3 	4 	5 
6 	7 	8 
9 		やり直し  . P 0 2 3 \$

GS1-128

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 M 0 0 1 \$	読み取り有り	■
 M 0 0 2 \$	読み取り無し	
 M 0 0 4 \$	]C1 送信無し	■
 M 0 0 3 \$	]C1 送信有り	
 M 0 0 6 \$	GS(FNC1)送信無し	■
 M 0 0 5 \$	GS(FNC1)送信有り	
 M 0 0 7 \$	GS 置換キャラクタ 「GS 置換キャラクタ」をスキャンし、続けて、設定したいキャラクタを「補足 A. フルアスキーバーコード」から 1 文字スキャンし、最後に「GS 置換キャラクタ」を再度スキャンします。例えば、@に設定したい場合は、「GS 置換キャラクタ」@「GS 置換キャラクタ」の順にスキャンします。	

🔍 GS1-128 を読み取る場合は、コード 128 も読み取り有りに設定してください。

GS1 Databar – Omni & Stacked

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 . N 0 3 2 \$	読み取り有り	■
 . N 0 3 3 \$	読み取り無し	
 . N 0 3 5 \$	チェックビット送信無し	■
 . N 0 3 4 \$	チェックビット送信有り	
 . N 0 3 7 \$	アプリケーション ID(01)送信無し	■
 . N 0 3 6 \$	アプリケーション ID(01)送信有り	
 . N 0 3 9 \$	Stacked 読み取り無し	
 . N 0 3 8 \$	Stacked 読み取り有り	■

GS1 Databar – Limited

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 . N 0 1 0 \$	読み取り有り	■
 . N 0 1 1 \$	読み取り無し	
 . N 0 1 3 \$	チェックビット送信無し	■
 . N 0 1 2 \$	チェックビット送信有り	
 . N 0 2 5 \$	アプリケーション ID(01)送信無し	■
 . N 0 2 4 \$	アプリケーション ID(01)送信有り	

GS1 Databar – Expanded

コマンドバーコード	説明	デフォルト
. N 0 2 6 \$	読み取り有り	■
. N 0 2 7 \$	読み取り無し	
. N 0 2 9 \$	Stacked 読み取り無し	■
. N 0 2 8 \$	Stacked 読み取り有り	
. N 0 3 0 \$	<u>読取最小桁数</u> 「読取最小桁数」をスキャンし、続けて、数値バーコードで設定したい桁数をスキャンし、最後に「読取最小桁数」を再度スキャンします。例えば、11 に設定したい場合は、「読取最小桁数」「1」「1」「読取最小桁数」の順にスキャンします。	6
. N 0 3 1 \$	<u>読取最大桁数</u> 「読取最大桁数」をスキャンし、続けて、数値バーコードで設定したい桁数をスキャンし、最後に「読取最大桁数」を再度スキャンします。例えば、48 に設定したい場合は、「読取最大桁数」「4」「8」「読取最大桁数」の順にスキャンします。	48
数値バーコード		
0 	1 	2
3 	4 	5
6 	7 	8
9 		やり直し . P 0 2 3 \$

9. メモリーボードの設定(メモリ搭載モデル専用)

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 . R 0 0 1 \$	メモリーボード	
 . R 0 0 2 \$	オンラインメモリーボード	■
 . E 0 5 2 \$	USB-HID スキャナボード	

システムコマンド

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 . R 0 0 5 \$	ラストコード削除	
 . R 0 0 4 \$	全メモリーデータ削除	■
 . R 0 0 3 \$	メモリーアップロードモード (一部のファームウェアは、トリガキー長押しによるアップロードにも対応しています。)	

データ出力インターフェイス

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 . R 0 1 4 \$	Bluetooth	
 . R 0 1 2 \$	USB-HID	■
 . R 0 1 3 \$	USB-COM	

データフォーマット

データフォーマットを設定します。

1. 「データフォーマット設定開始」をスキャンします。
2. 送信したい順番に対応するフィールド項目を「数値バーコード」でスキャンします。
3. フィールド項目のスキャンが終われば、最後に「データフォーマット設定終了」をスキャンします。

例えば、<レポート番号><日付><バーコードデータ>の順番に送信したい場合は、「データフォーマット設定開始」→「1」「2」「4」→「データフォーマット設定終了」の順にスキャンします。

番号	フィールド項目	番号	フィールド項目
1	レポート番号	3	時刻
2	日付	4	バーコードデータ

データフォーマット設定開始  : R 0 1 1 \$	
数値バーコード	
0 	1 
2 	3 
4 	5 
6 	7 
8 	9 
データフォーマット設定終了  : R 0 1 1 \$	

日付フォーマット

日付フォーマットを設定します。

1. 「日付フォーマット設定開始」をスキャンします。
2. 使用したい日付フォーマットに対応する番号を「数値バーコード」でスキャンします。
3. 日付フォーマットのスキャンが終われば、最後に「日付フォーマット設定終了」をスキャンします。

例えば、日付フォーマット MM/DD(16) に設定したい場合は、「日付フォーマット設定開始」→「1」「6」→「日付フォーマット設定終了」の順にスキャンします。

番号	日付フォーマット	番号	日付フォーマット
01	DD-MM-YYYY	09	DD/MM/YYYY
02	MM-DD-YYYY	10	MM/DD/YYYY
03	DD-MM-YY	11	DD/MM/YY
04	MM-DD-YY	12	MM/DD/YY
05	YYYY-MM-DD	13	YYYY/MM/DD
06	YY-MM-DD	14	YY/MM/DD
07	DD-MM	15	DD/MM
08	MM-DD	16	MM/DD

日付フォーマット設定開始  . R 0 0 8 \$	
数値バーコード	
0 	1 
2 	3 
4 	5 
6 	7 
8 	9 
日付フォーマット設定終了  . R 0 0 8 \$	

時刻フォーマット

時刻フォーマットを設定します。

- 1. 「時刻フォーマット設定開始」をスキャンします。
- 2. 使用したい時刻フォーマットに対応する番号を「数値バーコード」でスキャンします。
- 3. 時刻フォーマットのスキャンが終われば、最後に「時刻フォーマット設定終了」をスキャンします。

例えば、時刻フォーマット HH:MM(02)に設定したい場合は、「時刻フォーマット設定開始」→「0」「2」→「時刻フォーマット設定終了」の順にスキャンします。

番号	時刻フォーマット	番号	時刻フォーマット
01	HH:MM:SS	02	HH:MM

時刻フォーマット設定開始  R 0 0 9 \$	
数値バーコード	
0 	1 
2 	3 
4 	5 
6 	7 
8 	9 
時刻フォーマット設定終了  R 0 0 9 \$	

フィールドセパレータ

フィールドセパレータを設定します。

1. 「フィールドセパレータ設定開始」をスキャンします。
2. 「補足 B. フォアスキーバーコード表」からフィールドセパレータに設定したいキャラクタに対応する「バーコード」をスキャンします。
3. 最後に「フィールドセパレータ設定終了」をスキャンします。

フィールドセパレータ設定開始  . R 0 1 0 \$	フィールドセパレータ設定終了  . R 0 1 0 \$
---	--

日付の設定

内蔵リアルタイムクロックの日付を設定します。

1. 「日付設定開始」をスキャンします。
2. 設定したい日付を「数値バーコード」で YYYYMMDD フォーマットに従って、スキャンします。
3. 日付のスキャンが終われば、最後に「日付設定終了」をスキャンします。

例えば、日付を 2014/03/14 に設定したい場合は、「日付設定開始」→「1」「4」「0」「3」「1」「4」→「日付設定終了」の順にスキャンします。

日付設定開始  . R 0 0 6 \$	
数値バーコード	
0 	1 
2 	3 
4 	5 
6 	7 
8 	9 
日付設定終了  . R 0 0 6 \$	

時刻の設定

内蔵リアルタイムクロックの時刻を設定します。

1. 「時刻設定開始」をスキャンします。
2. 設定したい日付を「数値バーコード」で HHMMSS フォーマットに従って、スキャンします。
3. 時刻のスキャンが終われば、最後に「時刻設定終了」をスキャンします。

例えば、日付を 08:10:30 に設定したい場合は、「日付設定開始」→「0」「8」「1」「0」「3」「0」→「日付設定終了」の順にスキャンします。

時刻設定開始  R 0 0 7 \$	
数値バーコード	
0 	1 
2 	3 
4 	5 
6 	7 
8 	9 
時刻設定終了  R 0 0 7 \$	

補足 A. シリアルコマンド (iBarBT 専用)

iBarBT を Bluetooth SPP マスター又はスレーブ 接続することで、下記のシリアルコマンドを使用することが可能です。

接続確認コマンド

このコマンドを受信すると、iBarBT は、レスポンスとして、OK<CR><LF>を返信します。このコマンドは、iBarBT が通信可能状態にあるかをチェックしたい場合に使用します。

接続確認コマンド ホスト→iBarBT								
ASCII	<CR>	<LF>	{	A	L	}	<CR>	<LF>
Hex	0D	0A	7B	41	4C	7D	0D	0A

レスポンス iBarBT								
ASCII	O	K	<CR>	<LF>				
Hex	4F	4B	0D	0A				

iBarBT が通信可能状態に無い場合は、レスポンスはありません。

トリガ スタートコマンド

このコマンドを受信すると、iBarBT は、読取 LED を点灯し、パージコードのシャッスを試みます。パージコードを読み取ると、その読取データを送信します。パージコードを読み取るか、次に紹介する、トリガ ストップ コマンドを受信すると、読取 LED を消灯し、待機状態に戻ります。

トリガ スタートコマンド ホスト→iBarBT								
ASCII	<CR>	<LF>	{	T	G	}	<CR>	<LF>
Hex	0D	0A	7B	54	47	7D	0D	0A

トリガ ストップ コマンド

このコマンドを受信すると、iBarBT は、読取 LED を消灯し、待機状態に戻ります。

トリガ ストップ コマンド ホスト→iBarBT								
ASCII	<CR>	<LF>	{	T	S	}	<CR>	<LF>
Hex	0D	0A	7B	54	53	7D	0D	0A

タイマー付トリガ コマンド

このコマンドを受信すると、iBarBT は、読取 LED を点灯し、パージコードのシャッスを試みます。パージコードを読み取ると、その読取データを送信します。パージコードを読み取るか、指定された時間が経過すると、読取 LED を消灯し、待機状態に戻ります。

タイマー付トリガ コマンド ホスト→iBarBT								
ASCII	<CR>	<LF>	{	T	nn	}	<CR>	<LF>
Hex	0D	0A	7B	54	(*)	7D	0D	0A

(*) nn には、タイマー値 01~60 (01=1 秒、02=2 秒 ... 60=60 秒) を指定します。

例えば、タイマー値を 12 秒とする場合は、<CR><LF>{T12}<CR><LF>を送信します。(1=31hex, 2=32hex)

ビープコマンド

このコマンドを受信すると、iBarBT は、指定時間ビープを鳴動します。

ビープコマンドは、下記の低音・中音・高音の3タイプをサポートしています。

低音ビープコマンド 形式→iBarBT								
ASCII	<CR>	<LF>	{	L	n	}	<CR>	<LF>
Hex	0D	0A	7B	4C	(*)	7D	0D	0A

中音ビープコマンド 形式→iBarBT								
ASCII	<CR>	<LF>	{	M	n	}	<CR>	<LF>
Hex	0D	0A	7B	4D	(*)	7D	0D	0A

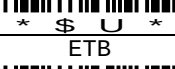
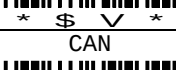
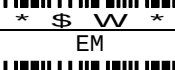
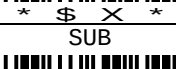
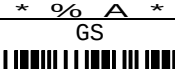
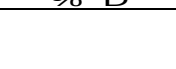
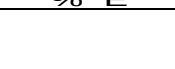
高音ビープコマンド 形式→iBarBT								
ASCII	<CR>	<LF>	{	H	n	}	<CR>	<LF>
Hex	0D	0A	7B	48	(*)	7D	0D	0A

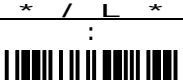
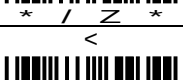
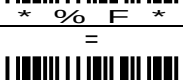
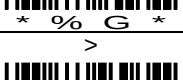
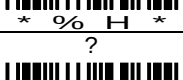
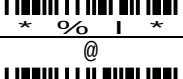
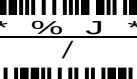
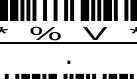
(*) n には、タイマ値 1~9 を指定します。下記のタイマ値表を参照ください。

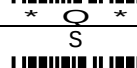
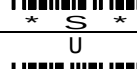
タイマ値表	
n	意味
1	100 ミリ秒
2	200 ミリ秒
3	300 ミリ秒
4	400 ミリ秒
5	500 ミリ秒
6	1 秒
7	2 秒
8	3 秒
9	5 秒

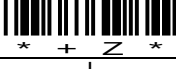
例えば、高音ビープを 5 秒か鳴動させる場合は、<CR><LF>{H9}<CR><LF>を送信します。(9=39hex)

補足 B. フォアスキバーコード表

NUL  * % U *	SOH  * \$ A *
STX  * \$ B *	ETX  * \$ C *
EOT  * \$ D *	ENQ  * \$ E *
ACK  * \$ F *	BEL  * \$ G *
BS  * \$ H *	HT  * \$ I *
LF  * \$ J *	VT  * \$ K *
FF  * \$ L *	CR  * \$ M *
S0  * \$ N *	SI  * \$ O *
DLE  * \$ P *	DC1  * \$ Q *
DC2  * \$ R *	DC3  * \$ S *
DC4  * \$ T *	NAK  * \$ U *
SYN  * \$ V *	ETB  * \$ W *
CAN  * \$ X *	EM  * \$ Y *
SUB  * \$ Z *	ESC  * % A *
FS  * % B *	GS  * % C *
RS  * % D *	US  * % E *
やり直し  * P 0 2 3 \$	

SPACE  * / *	!  * / A *
"  * / B *	#  * / C *
\$  * \$ *	%  * % *
&  * / F *	/  * / G *
( * / H *	)  * / I *
+  * / J *	+  * + *
-  * / L *	-  * - *
:  * / Z *	:  * % F *
<  * % G *	=  * % H *
>  * % I *	?  * % J *
@  * % V *	/  * / *
.  * . *	0  * 0 *
1  * 1 *	2  * 2 *
3  * 3 *	4  * 4 *
5  * 5 *	6  * 6 *
7  * 7 *	8  * 8 *
9  * 9 *	A  * A *
やり直し  . P 0 2 3 \$	

B  * B *	C  * C *
D  * D *	E  * E *
F  * F *	G  * G *
H  * H *	I  * I *
J  * J *	K  * K *
L  * L *	M  * M *
N  * N *	O  * O *
P  * P *	Q  * Q *
R  * R *	S  * S *
T  * T *	U  * U *
V  * V *	W  * W *
X  * X *	Y  * Y *
Z  * Z *	[ * % K *
¥  * % L *	]  * % M *
^  * % N *	-  * % O *
`  * % W *	a  * + A *
b  * + B *	c  * + C *
やり直し  P 0 2 3 \$	

d  * + D *	e  * + E *
f  * + F *	g  * + G *
h  * + H *	i  * + I *
j  * + J *	k  * + K *
l  * + L *	m  * + M *
n  * + N *	o  * + O *
p  * + P *	q  * + Q *
r  * + R *	s  * + S *
t  * + T *	u  * + U *
v  * + V *	w  * + W *
x  * + X *	y  * + Y *
z  * + Z *	{  * % P *
  * % Q *	}  * % R *
~  * % S *	DEL  * % T *
やり直し  . P 0 2 3 \$	

F1  * \$ T A *	F2  * \$ T B *
F3  * \$ T C *	F4  * \$ T D *
F5  * \$ T E *	F6  * \$ T F *
F7  * \$ T G *	F8  * \$ T H *
F9  * \$ T I *	F10  * \$ T J *
F11  * \$ T K *	F12  * \$ T L *
Home  * \$ T M *	End  * \$ T N *
Enter(入力)  * \$ T + D *	App  * \$ T + O *
→  * \$ T O *	←  * \$ T P *
↑  * \$ T Q *	↓  * \$ T R *
Page Up  * \$ T S *	Page Down  * \$ T T *
Tab  * \$ T U *	Back Tab  * \$ T V *
ESC  * \$ T W *	Enter  * \$ T X *
BS  * \$ T Y *	Ins  * \$ T Z *
やり直し  . P O 2 3 \$	

Del  * \$ T % K *	左 Alt Make  * \$ T % L *
左 Alt Break  * \$ T % M *	右 Alt Make  * \$ T + E *
右 Alt Break  * \$ T + F *	左 Shift Make  * \$ T % N *
左 Shift Break  * \$ T % O *	右 Shift Make  * \$ T + I *
右 Shift Break  * \$ T + J *	左 Windows Make  * \$ T + K *
左 Windows Break  * \$ T + L *	右 Windows Make  * \$ T + M *
右 Windows Break  * \$ T + N *	左 Ctrl Make  * \$ T % W *
左 Ctrl Break  * \$ T + A *	右 Ctrl Make  * \$ T + G *
右 Ctrl Break  * \$ T + H *	
やり直し  . P 0 2 3 \$	

補足 C. ASCII コード 表

	0		1		2	3	4	5	6	7
0	NUL	^@	DLE	^P	SP	0	@	P	`	p
1	SOH	^A	DC1	^Q	!	1	A	Q	a	q
2	STX	^B	DC2	^R	"	2	B	R	b	r
3	ETX	^C	DC3	^S	#	3	C	S	c	s
4	EOT	^D	DC4	^T	\$	4	D	T	d	t
5	ENQ	^E	NAK	^U	%	5	E	U	e	u
6	ACK	^F	SYN	^V	&	6	F	V	f	v
7	BEL	^G	ETB	^W	'	7	G	W	g	w
8	BS	^H	CAN	^X	(	8	H	X	h	x
9	HT	^I	EM	^Y	)	9	I	Y	i	y
A	LF	^J	SUB	^Z	*	:	J	Z	j	z
B	VT	^K	ESC	^[	+	;	K	[	k	{
C	FF	^L	FS	^\	,	<	L	\	l	
D	CR	^M	GS	^]	-	=	M	]	m	}
E	SO	^N	RS	^^	.	>	N	^	n	~
F	SI	^O	US	^_	/	?	O	_	o	DLE

補足 D. サンプルコード

コード 39



JAN-13



インターピット 2/5 (ITF)



コード 128



GS1-128



GS1 Databar Expanded



修理依頼書

修理を依頼される場合は、下記の用紙に必要事項を記入し、修理品と一緒に販売店へご返送ください。尚、修理は全てポストパック方式で行います。現地での出張修理などは一切行いません。

弊社での修理は、ユニット（モジュール）単位の動作不良報告及び交換を行っています。故障原因調査・解析の報告は行っておりませんの、予め、ご了承ください。

修理依頼書			
依頼日			
会社名			
部署名			
担当者			
メールアドレス			
電話番号		FAX番号	
ご住所			
販売店名		ご購入日	
製品型番（名称）			
製造番号（S/N）			
付属品	ケーブル[]・ACアダプタ		
トラブルの症状を詳しく記入してください。 また、症状を確認するために必要なバーコードラベルや磁気カード等があれば、修理品に添付してお送りください。			
症状発生頻度 : ☐ 常に起こる ☐ 1日に [] 回程度			
インターフェイス : ☐ キーボード ☐ RS232C ☐ USB			
☐ その他 []			
接続ホスト : メーカー []			
型番 []			
その他、使用状況を記入ください。			
返送先			
見積・請求先			
スポットサービス時は、修理見積後に修理をキャンセルされた場合に限り、見積料として弊社所定の料金を申し受けます。ご了承いただける場合は、押印の上、修理品に添付してご返送ください。			ご確認印